

図書館ホームページ（パソコン） <http://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

（携帯） <http://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/i/>

「ざ・ちゅうおう ぶれす」は、世田谷区のホームページでもご覧いただけます。

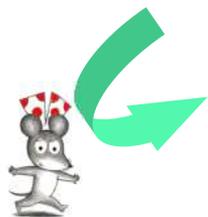
第1回 図書館活用講座（入門編）& 中央図書館見学会を開催

平成28年10月20日（木）午後



職員による1時間ほどの講義に熱心に聞き入る参加者

図書館のことを多くの人に知ってもらい、上手に利用していただきたいと、今回初めて「図書館活用講座(入門編)」を開催しました。講座は、図書の分類や検索方法などの講義のあと、館内見学（普段は入れない保存庫やバックヤードも）。参加者からは、「美術館探検ツアーのようでワクワクして参加しましたが、期待通り楽しかった。」「普段なかなか見ることができない場所も見ることができて、図書館に来るのがとても楽しみになりました。」など続編を期待する声が多数ありました。



2グループに分かれての館内見学



地下2階の保存庫では、貴重な本や雑誌のバックナンバーに興味津々

中央図書館カレンダー

3月							4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4							1		1	2	3	4	5	6					1	2	3
5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
							30																				

開館時間

火～日 10:00～19:00
 月・祝・休日 10:00～17:00

■ は、世田谷区立中央図書館休館日です。
 ■ は、17時に閉館です。

東京都公文書館

世田谷の活字拠点を訪ねて・5

東急田園都市線二子玉川駅から東へ徒歩約15分。二子玉川公園のほど近くに東京都公文書館があります。港区の竹芝庁舎から現在の場所（旧都立玉川高等学校）に平成24年4月に仮移転して、事業を開始しています。

平成31年度からは国分寺市泉町にて事業を開始する予定です。

東京都公文書館外観



東京都公文書館は昭和43年10月1日に公文書等の総合的、統一的な管理を行うために、「都政史料館」を統合して開設されました。都の公文書や庁内刊行物等を系統的に収集・保存し、これらの効率的な利用を図るとともに、併せて都に関する歴史の編集事業を行っています。

東京府文書（慶応4年～昭和18年）・東京市文書（明治22年～昭和18年）、東京都文書（昭和18年7月1日～現在）、庁内刊行物（明治期～現在）、図書類（明治期以降）、史料（江戸・明治期の史料）、地図（江戸・明治期の地図類）及び視聴覚資料（フィルム、ビデオ、写真ネガ、スライド）を約100万点所蔵しています。

なお、資料については全てが公開されているわけではなく、作成又は取得した日の属する年度の翌年度から起算して30年を経過したものに、内容について再評価を行い、後世に伝えていくべきものについて、個人情報を除いて公開しているそうです。

例えば、平成28年4月には昭和60年度に作成された都公文書が公開されています。



公開された都公文書の一例

建物の2階に閲覧室があります。

資料は全て閉架式の書庫に保存されているため、閲覧を希望する場合は閲覧室に備え付けてある目録やパソコン端末を利用して希望の資料を検索して、閲覧票に記入することによって、資料を閲覧することができます。

ただし、重要文化財等に指定されている資料については、DVDやマイクロフィルムによる閲覧をお願いしていますとのことです。

また、昭和39年（1964年）に開催された前回の東京オリンピック関連の公文書や資料についても約1万点所蔵しているとのこと。

こちらについては東京都公文書館が年3回発行している「東京都公文書館だより」の第26号（平成27年3月発行）で特集されています。



閲覧室の様子

東京都公文書館は都の史料編さん事業として明治以来の継承事業である「東京市史稿」の編さんのほか、「都史資料集成」の編さんを行っています。

「東京市史稿」は現在江戸時代の産業についての資料を編さんしており、「都史資料集成」は戦後の都政史を編さん中とのことです。

「東京市史稿」、「都史資料集成」及び「東京都公文書館だより」は中央図書館にも所蔵されています。(一部館内閲覧の資料があります。)

東京都公文書館に所蔵されている資料の件名情報等はインターネットで検索できます。下記のホームページのトップ画面の「情報検索システム」のバナーをご利用ください。

利用案内など詳しいことは下記ホームページ又は東京都公文書館にお問い合わせ下さい。

東京都公文書館

所在地 世田谷区玉川 1 - 20 - 1

電話 03 - 3707 - 2601

F A X 03 - 3707 - 2500

アクセス

東急田園都市線「二子玉川駅」下車 徒歩 15 分

東急大井町線「上野毛駅」下車 徒歩 10 分

「二子玉川駅」、「上野毛駅」より東急バス「玉川高校前」下車

(詳しくはホームページをご覧ください。)

開館時間 9:00 ~ 17:00

休館日 土日祝祭日及び振替休日、毎月第3水曜日(祝日の場合は翌日)、年度末最終の平日、
年未年始、臨時休館日

ホームページ <http://www.soumu.metro.tokyo.jp/01soumu/archives/index.html>

平成28年度「世田谷区家庭読書の日」標語が決定!!

<本だなに ちりばめられた ぼくの夢>

しおりは世田谷区内の図書館で配布中です。
イラスト by 勝田日向子さん(区立中学校2年生)

今年度は過去最多、1,642 通の応募があり、その中から区立小学校5年生、吉村優杏さんの作品が見事、最優秀賞に選ばれました。



講演会でお招きした水中写真家の中村征夫さんの写真。イルカの親子が泳いでいる、あざやかなブルーが印象的なポスターになりました。



優秀賞
一般の部
秋本陽子さん

優秀賞
中学生の部
坂口結希さん

優秀賞
小学生以下の部
小町梨乃さん

最優秀賞
吉村優杏さん

文字・活字文化の日記念講演会「旅の不思議、書物の不思議」

平成 28 年 11 月 20 日(日)午後 1 時 30 分～4 時 成城ホール

今回の講演会は、講師に作家・沢木耕太郎さんをお迎えして、2部構成で行いました。

第1部 子ども読書リーダー(子ども司書)による発表

子ども読書リーダーとは、夏休みに調べ学習やおはなし会を行う講座を受講し、図書館のおはなし会などで活躍している子どもたちです。今回は、梅丘図書館と玉川台図書館の読書リーダーが発表しました。

梅丘図書館で活動する小学5年生3人の発表は、日本の昔話や落語、狂言などで、会場から絶え間なく笑い声があがりました。次の玉川台図書館の読書リーダー4人は、絵本の読み聞かせ『ぐりとぐら』(福音館書店)や沢木耕太郎氏の『深夜特急 第一便』(新潮社)より、ソフトクリームを食べているシーンの朗読、最後にそれぞれのお薦め本を紹介しました。

子どもたちは、緊張しながらも堂々と発表していました。アンケートからも「子どもの朗読は、とてもホッとしました。いやされました！」などの感想をいただきました。



『ぐりとぐら』発表の様子

第2部 沢木耕太郎さん講演「旅の不思議、書物の不思議」

『深夜特急』や昨年8月まで朝日新聞に連載していた『春に散る』にまつわるエピソードをお話いただきました。また、中学生のときに父親からもらった本に大きな影響を受けたと、『何でも見てやろう』(小田実著)、『斜陽』(太宰治著)を紹介され、本のもたらす影響の強さや魅力を伝えてくださいました。旅の魅力や本との出会いのすばらしさを感じる素敵な講演会でした。(参加者262名)



ユーモアをまじえておはなしする沢木さん

イベントの報告

「世田谷区家庭読書の日」記念講演会 ～水中写真家が語る海、本、家族～

平成 28 年 12 月 3 日(土)午後 2 時～4 時 教育センター「ぎんが」

世田谷区では、「毎月23日は世田谷区家庭読書の日」として、標語の募集や、講演会を開催し、家庭での読書活動の普及・啓発に取り組んでいます。講演会が始まる前に、平成28年度の最優秀標語と優秀標語の発表と表彰式を行いました。(選ばれた標語などは、2ページで紹介しています。)

今年度は講師に、水中写真家の中村征夫氏をお招きしました。海に潜って52年という中村氏。その貴重な写真をプロジェクターで投影しながら、海の生き物の美しさや神秘的な話はもちろんのこと、撮影時怖かった話なども語ってくださいました。

また、著書である児童書『ぴっかぴっかの海』(講談社)のタイトルの由来やさかなクンとの交流、お子さんが子どもの頃のことなど興味深い話はつきませんでした。最後に人気のある本として中国の漢文とご自身が撮影した写真をコラボさせた『水中の賢者たち』(ホーム社)を紹介されました。中村氏の生き物への愛情や自然への畏敬の念が、随所に感じられる講演会でした。(参加者75名)



世田谷区在住の中村氏の講演

講演をしてくださった沢木耕太郎さん、中村征夫さんのサイン色紙を中央図書館1階・情報コーナー近くの柱に飾っています。いらした際には、是非ご覧下さい。

学校おはなし会ボランティア養成講座(初級)を開催!

区立小学校などでおはなし会ボランティアをしている方、またはその予定のある方を対象にした連続6回講座です。講義では、JPIC読書アドバイザーの児玉ひろ美先生に、おはなし会の意義、読み聞かせ・ストーリーテリングの基本を講義していただきました。

その後、区内で活躍されているおはなし会ボランティアの方を講師に、絵本の読み聞かせとストーリーテリングの実習を行いました。

受講生からは「講義ではロングセラー絵本や昔話の概念など、絵本についての基本的なことや、年齢別対象本の説明、おはなし会を行う上で必要な事柄がよく分かり、大変勉強になった。」「実習講師の方々が、本当に本が好きで「心の栄養」とおっしゃったことに、感激。日々、努力されているということも素敵でした。」などの感想をいただきました。(66名受講)



講義に聞き入る受講生

～おはなし会ボランティア養成講座(ステップアップ)も開催～

はじめてのブックトーク

(12月2日、16日 砧図書館)
講師:青木淳子氏(元公立図書館司書) (16名受講)



1日目の講義後、2日目には受講生がブックトークの実演を行いました。

子どもに物語の読み聞かせを「なぞり聞かせ」にチャレンジ!
(12月7日、8日 代田区民センター)
講師:尾野三千代氏(著書に『子どもに物語の読み聞かせを 読み聞かせに向く260話のリスト』(児童図書館研究会)がある。) (25名受講)



講師の経験に基づいた貴重なお話に受講生皆、深く感動した2日間でした。

発声講習会

～相手に届きやすい声とは?
(1月19日 中央図書館)
講師:下村明氏(劇団すぎのこ) 28名受講



劇団員の方を講師に、発声、発音の基礎を学びました。手遊び、歌遊びの講習も行いました。

学びのプレゼン～学習活動発表会～ & 永江朗氏講演会

平成 29 年 1 月 21 日(土)午後 2 時～4 時 30 分
教育センター「ぎんが」

学習活動発表会とは、図書館の資料などを利用して研究や活動をしたことを発表してもらおうという図書館ならではの事業です。今回は、4組の方に内容の濃い発表をしていただきました。発表内容は4月上旬完成予定の冊子をご覧ください。

発表終了後、フリーライターの永江朗氏に「図書館の本で調べる」というテーマでご講演いただきました。学びのプレゼン発表者それぞれについてのコメントもあり、聴講者に大変好評でした。(参加者50名)



秋の図書館ロビーコンサート

平成 28 年 10 月 10 日(月・祝)
教育センターのロビーでヴァイオリンコンサートを行いました。演奏は前回も素晴らしい音色で魅了した永井由里さんです。今回も「シャコンヌ」(J.S.バッハ作曲)ほか全9曲を情熱的に演奏され、その迫力に驚いたという感想もありました。(参加者234名)

新春図書館コンサート

平成 29 年 1 月 9 日(月・祝)
1階返却カウンター前でのサクソコンサート。立教大学庶民吹奏楽団から4名をお招きし、サクソ四重奏による力強く艶やかな音色を披露していただきました。親子で楽しめるように、曲目もジブリ映画のメドレーなど幅広い層に親しまれるもので、子どもたちが身を乗り出して音色に耳を傾け、一緒になって歌う姿が印象的でした。(参加者177名)

「マルチメディア デイジー図書」って 知ってる？

貸出はじめました

マルチメディア
デイジー図書の

障害のある
子どもたちのための

？ マルチメディアデイジー図書って何？

A 印刷物を読むことが困難な人のための電子書籍の一種です。
音声といっしょに文字や画像が表示されます。
視覚障害・聴覚障害・学習障害・肢体障害など、様々な人が利用できるデジタル図書です。



画像はイメージです。
「DAISY って何だろう？」
(日本障害者リハビリテーション協会) より

？ どうやって使うの？

A 再生ソフトをホームページからダウンロードして、ご自宅のパソコンでご利用いただけます。
音声のスピードや文字の大きさ、背景とのコントラストを調整できます。また、ハイライトがついたり、目次があったり、目次から読みたい章や節・任意のページに飛ぶことができる機能があります。

読み上げている箇所が色で反転するので
今どこを読んでいるのかがわかりやすい！

？ どんなものがあるの？

A 世田谷区立図書館では、平成 28 年 12 月現在で、55 タイトル所蔵しています。
『ぐりとぐら』(中川李枝子さく 大村百合子え 福音館書店) などの絵本や『十五少年漂流記』(ジュール=ベルヌ著 那須辰造訳 金斗鉉絵 講談社) といった物語などを取り揃えています。地下 1 階レファレンスカウンターにある所蔵目録をご参照ください(デイジー図書版の目録もあります)。



？ 誰でも借りることができるの？体験することはできるの？

A マルチメディアデイジー図書は、障害者サービスに登録している利用者の方のみ利用できます(著作権法第 37 条第 3 項に基づく)。また、障害者サービスに登録していない方でも、中央図書館の地下 1 階レファレンスカウンターにある再生ソフトの入ったパソコン端末で、体験版マルチメディアデイジー図書を見ることができますので、興味がある方はぜひいらしてください。



新着図書案内



『ピーターラビットの生みの親
-ビアトリクス・ポター物語-』
サラ・グリストウッド著 / 本田左良訳
(スペースシャワーネットワーク)

35を越える言語に翻訳され、キャラクターグッズでもおなじみの絵本「ピーターラビット・シリーズ」の作者ビアトリクス・ポターの生涯を紹介した1冊です。

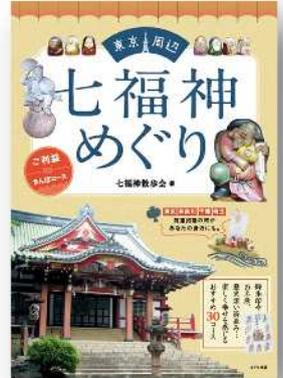


きのこの研究で成果をあげた科学者としての一面。著作権の問題にも早くから取り組んだ事業家としての手腕。年下の弁護士との晩婚。農業の経営に乗り出し、ナショナル・トラストの中心メンバーとしても活躍した晩年。死後もその遺産は受け継がれ、彼女の物語は今も続いています。

【請求記号 児童研究書 7266ほ】

『東京周辺七福神めぐり
-ご利益さんぽコース-』
七福神散歩会著 (メイツ出版)

東京・神奈川・千葉・埼玉の「七福神めぐり」30コースを紹介したガイドブックです。



松の内に訪れると、どこの場所もご本尊の御開帳と御朱印の対応があるようですが、お正月以外でも常時対応してくれる寺社が、この本には紹介されています。

詳細な巡る順路だけでなく、歩行距離や平均の歩行時間なども記載されています。1時間くらいで巡られるコースや、中には5時間ほどかけてじっくり歴史深い町並みを味わえるコースもあり、この本片手にお出かけしたくなるような一冊です。

【請求記号 旅行ガイド 2100と】

『日本の美しい色の鳥』
上田恵介監修 / 大橋弘一解説
(エクスナレッジ)

図書館には、鳥の図鑑や事典がたくさんありますが、本書の特徴は、日本の野生の鳥を色別に分けて紹介しているところです。色鮮やかな写真と読み応えのある解説で楽しめます。例えば、赤色を愉しむタンチョウ、青色を愉しむオオルリなどのほか、日本の伝統色として、ウグイス色、とび色などがあります。



ぜひ、本書を読んだ後、世田谷区が多摩川河川敷や野川、公園へと繰り出して、自然の中の鳥たちに出会ってください。

【請求記号 4882に】

『歌舞伎キャラクター絵図
厳選53演目の見方・楽しみ方』
辻村章宏イラスト・解説
「江戸楽」編集部編著 (メイツ出版)

本書は、数ある歌舞伎の演目の中から、有名な53演目を選び、その登場人物を、あらすじ・見所・名台詞とともに全編カラーのイラストで紹介しています。



個性豊かなキャラクターたちの魅力をイラストで楽しみつつ、役の髪型や衣装の決まり事、隈取の種類など歌舞伎の知識をわかりやすく学ぶことができます。

難しそうだと思われがちな歌舞伎ですが、そんな歌舞伎の世界を身近に感じさせてくれます。歌舞伎鑑賞に出かける際には、ぜひご一読してみてください。

【請求記号 7740つ】

図書館からのお知らせ

10代のビブリオバトル開催!

観戦は自由! どなたでもどうぞ。

日時: 3月18日(土)午後2時~3時45分

会場: 教育センター(中央図書館)3階「ぎんが」

申込: 事前申込不要。当日会場へ。

ビブリオバトルとは、バトラー(発表者)が面白いと思った本を5分で紹介・質疑応答を行います。すべての発表が終わったら「どの本が一番読みたくなったか?」を基準に参加者全員で投票を行い、もっとも多い票を集めた「チャンプ本」を決めるものです。

あなたの1票でチャンプ本が決まります!

~「子ども読書の日」記念講演会~

山村浩二さんの絵本と 動く絵のおはなし



日時: 4月22日(土)

午後2時~3時30分

会場: 教育センター(中央図書館)3階「ぎんが」

対象: 小学生から大人まで、先着100名

申込: 4月1日(土)~4月15日(土)の間に電話またはFAXで「せたがやコール」へ。

電話: 5432-3333 FAX: 5432-3100

保育・手話通訳: 有り。詳しくは区報4月1日号をご覧ください。

レファレンス

~こんな相談がありました~

運慶が仏像を制作した報酬「上品八丈絹43疋」は、現代のいくらぐらいですか?

円成寺の大日如来像には、台座に仏師運慶が仕事を請けて制作を始めた日付と、その報酬が記銘されています。現代の字に直すと、

「運慶承り 安元元年(1175年)11月24日之を始める
給料物 上品八丈絹43疋 以上 御身料なり」

この頃は「准絹」といって、貨幣ではなく絹で物の価値の換算をしていたようです(国史大辞典7)。

「群書類従 第七号」収録の「永仁御即位用途記」(13世紀末)には、上品八丈絹42疋1丈(42.125疋)=准絹16850疋 米75石=准絹8000疋とあります。試しにこの時点のレートで計算してみましょう。

上品八丈絹43疋=准絹17200疋=161.25石。

一日の労働賃金(100文)を15000円とすると、米1石=1000文=15万円。

上品八丈絹43疋=161.25石×15万円=約2400万円 となります。

しかし11世紀の文書には米100石=准絹100とあり、絹の価値は暴落しているのがわかります。仮に12世紀のレートを米10石=准絹100とすると、

上品八丈絹43疋=1720石×15万円=2億5800万円 となります。

制作期間1ヶ月とはいえ、等身大の木造仏1体の制作の報酬。驚きの結果でした。

[掲載にあたり内容を追加・精査しています。]



編集後記

「3月は別れの季節、4月は出会いの季節」と言います。今年の3月も卒園、卒業、転勤や退職などで様々な別れがあることでしょう。また、4月からの新たなスタートに向けて、期待と不安の入り混じった日々を過ごす方もいらっしゃるでしょう。

ほっと一息つきたくなった時に、図書館にお越しになってみてはいかがでしょうか。